

論点整理ペーパー（案）

トリアゾホス

諮問理由	化学構造	作用機序	用途
暫定基準	有機リン剤	ChE 活性阻害	殺虫剤

【試験成績の概要】

1. 暫定基準値及び基準参照国は、別添参照（省略）。EU の資料は公開情報がなく、厚生労働省も入手不可能であったため、JMPR（2002 及び 2007 年）の評価書に基づき評価を作成した。
2. 各種試験成績は、土壌残留試験、作物残留試験(国内)及び一般薬理試験を除き、概ね項目を満たしている。
3. 各毒性試験の実施年及び GLP 適用の有無については、評価書たたき台の目次参照（省略）。

【事務局における気づきの点】

1. 農作物中で、10%TRR を超える代謝物は認められなかった。
2. 遅発性神経毒性について：急性遅発性神経毒性試験（ニワトリ）では、4 試験中、遅発性神経毒性を有すると考察されているものが 2 本、明らかでないとするものが 2 本、90 日間亜急性遅発性申請毒性（ニワトリ）では、最高用量で遅発性機能障害を示したが、病理組織学的には遅発性神経毒性を示す病変はないと結論された。
3. JMPR では、発がん性は認められなかったとしている。
4. 遺伝毒性試験では、*in vitro* 試験は全て陰性であったが、*in vivo* の伴性劣性致死試験（ショウジョウバエ）及び染色体を用いた不分離試験（ショウジョウバエ）が陽性であった。*In vivo* の染色体消失試験（ショウジョウバエ）及び小核試験（マウス）は、陰性であった。
5. ADI 設定根拠資料について：ヒト志願者による試験が多数実施されており、投与期間は最大 3 週間。JMPR では、ヒトの 3 週間反復投与試験に基づき ADI を設定（安全係数 10）している。

*過去に議論となった事例集に関連する事例があれば、追記する。